

開催報告

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2021「助成対象団体オンライン交流会」を 2022年2月7日（月）に開催しました。

本プログラムは、小児がんなどの難病により長期療養する子どもたちとその家族を支える市民活動を応援しています。

2021年度より第3期がスタートし、1年目は「コロナ対応特別助成」として、コロナ禍の中でオンラインを活用しながら新たな事業に取り組んでいる6団体を応援しています。

コロナ禍で病院の面会制限やボランティア受入れの中止・制限による遊びやイベントの不足、感染の不安から安心して外出できないなど、長期療養の子どもとその家族は多くのストレスを抱えています。そのような状況のなか、各団体も何とか支援を届けたいと試行錯誤しながらも、工夫して活動に取り組んでいます。

今回のオンライン交流会では、団体の助成プロジェクト報告を通して、オンライン支援の可能性や拡がりについて参加した皆さんと共有を深める機会となりました。

主なプログラム内容（2時間）

1. 2021年助成対象団体によるプロジェクト報告
2. ディスカッション『オンライン支援の可能性や拡がり』
3. アドバイザーコメント など

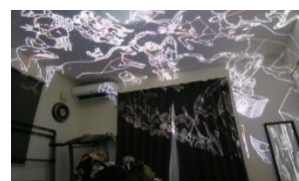


1. 2021年助成対象団体によるプロジェクト報告

団体名	一般社団法人星つむぎの村（山梨県） https://hoshitsumugi.org/
プロジェクト名	天井の先の宇宙—つなぐいのち・つながる未来

主なプロジェクト内容：

- ・在宅療養中の子どもたちと家族へのフライングプラネタリウム
—機材を貸出し、自宅で視聴可能なプラネタリウムの配信を実施
- ・オンライン交流の「星の寺子屋」
—様々な子どもたちがオンラインで学びや遊びを一緒に経験し交流する機会の提供



団体名	認定特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会（大阪府） https://www.clinicclowns.jp/
プロジェクト名	小児病棟でのクリニックラウンオンラインイベントのプログラム開発

主なプロジェクト内容：

- ・小児病棟でオンラインイベントを開催
—夏まつりやクリスマスなど季節に合わせたイベントをクリニックラウンと病棟スタッフが一緒に企画し、開催



団体名	特定非営利活動法人かけはしねっと（茨城県） https://kakehashinet.jp/
プロジェクト名	医療的ケア児および家族のオンライン参加を促進する事業

主なプロジェクト内容：

- ・オンライン参加の未経験者を対象としたオンライン参加の促進
—主に医療的ケア児の親を対象に、オンライン参加体験会を実施



団体名	特定非営利活動法人絵本カーニバル（東京都） http://www.ehoncarnival.com/
プロジェクト名	コロナ禍に対応した院内活動プログラムの開発と継続の仕組みづくり

主なプロジェクト内容：

- ・ コロナ禍に適応したプログラム開発と仕組みづくり
 - － 対面ワークショップのかわりに病室で楽しめる個包装の絵本製作キットを開発・配布
- ・ 市民ボランティアの参加促進
 - － キット製作に参加してもらい、子どもたちの状況と団体の理解促進につなげる取組み



団体名	特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター（千葉県） https://chiba.gekijou.org/
プロジェクト名	コロナ禍での長期入院中の子どもが笑顔になる、オンライン併用あそびプログラムの開発と試行

主なプロジェクト内容：

- ・ 対象年齢に応じた工作キットの開発
 - － 5つの病院で配布・試行の実施（動画付きの工作キットや全動画を視聴できるDVD等）
- ・ プロのパフォーマンスによる「遊びの動画パンフレット」制作
 - － 幼児から高校生まで楽しめる内容を2本制作



団体名	認定特定非営利活動法人ポケットサポート（岡山県） https://www.pokesapo.com/
プロジェクト名	コロナ禍における長期療養児へのWEBアウトリーチ事業

主なプロジェクト内容：

- ・ Google の検索キーワード連動型広告などのWEBを活用したアウトリーチの実践
 - － 個別相談につながりやすい検索ワードのリストを収集
- ・ YouTube 動画広告を活用したアウトリーチ
 - － 団体活動に関連するYouTube動画をみる人たちに対して広告動画を通じ訴求



2. ディスカッション『オンライン支援の可能性と拡がり』

Pickup

- ・ オンライン画面でつながる楽しみや可能性は工夫次第で無限である。
- ・ 多忙な小児病棟の負担を軽減できる取り組みの一つとしてオンラインは有効ではないか。そのためにもオンライン導入にむけた最初のアクションをどうするのか、皆と協力して考えていきたい。
- ・ オンラインは新たな当事者や病院とつながるきっかけとして活用できるのではないか。

3. アドバイザーコメント*第3者である有識者に本プログラムやプロジェクトに対するアドバイスをもらっています。

Pickup

- ・ コロナ禍で子どもも大人も疲弊している。活動の共有化は必要である。
- ・ 個々のプロジェクトも横のつながりができれば、より大きな力となって社会に発信できる。
- ・ 市民や企業で働いている人もコロナ禍で何か社会の役に立ちたいと考えている。活動を支える人をどう増やしていくのかも考えて欲しい。

【最後に】

オンライン交流会は短い時間でしたが、皆さんから積極的な意見が出され内容の濃い時間となりました。団体の所在地は全国様々ですが、オンラインのメリットでどこでもつながれることを実感できました。一方でオンラインは普及したとはいえ、検索で当事者と団体の活動がなかなかつながらない、という課題も出されました。その解決策としてタケダ・ウェルビーイング・プログラムの助成対象団体や助成プロジェクト内容などが一覧化されたプラットフォームを望む声も出されました。

長期療養の子どもたちとその家族のQOLを高めることを目指し、本プログラムでも応援できることを考え、より良い支援につながるよう取り組んでいきたいと思えます。